

【企画もの】

## なにこれ？

# ちょっと変わった文具をご紹介します！

### ◇はじめに

書店や大型雑貨店の文具コーナーに行ったとき、「何これ、文房具なの？」や「何これ、どうやって使うの？」と感じる文具に出会ったことはないだろうか。今や市場に出回る文具は単に「書く・消す・貼る・切る」ための道具ではない。より便利に、より快適に人々に使ってもらえるべく文具は改良され、新機能を備え、そして更にそれらを補うべく新たな文具が生み出されている。また、人々の様々なニーズや好みに対応するために、文具の「見た目」という点にもこだわりがみられるようになってきている。こういった中で出会う、一見何モノかよくわからない文具をここでは「ナニコレ文具」と称していくつかみていこう。

### ◇ナニコレ文具

『何これ、文房具？』編		『何これ、どうやって使うの？』編
	ナニコレ？	
インテリア雑貨、ではなく文具の写真		一見何にどう使うのか分からない

### 『何これ、文房具？』編

	 <p>ペン先キャップ Mushry そのの紙製品は、 Ballpoint</p>	
	「MUSHRY」	「ブタシャープ イエロー」
メーカー	株式会社magnet 文具だけでなく生活雑貨全般の製造販売や食品輸入を行う。商品開発の三原則は「実用性・デザイン・適正価格」。	株式会社デザインフィル ライフスタイルデザイン事業と商業デザイン事業を行う。前者では紙製品を中心に、特にデザインを重視した文具の商品開発から製造販売までを行う。
価格(税別)	¥990	¥300

<p><b>使用感</b></p>	<p>輸入雑貨を思わせる可愛い、妖精をデザインしたボールペン。見た目以上に軽くて手にも馴染むので書きやすい。また替芯にトンボ鉛筆の BR-SF を使用できることや、ペンスタンドとペン先カバーがついていることから実用性も高い。ペンスタンドに立てると一見文具には見えないため、インテリア雑貨と文具、どちらの役割も十分に担うことができる。</p>	<p>手のひらサイズの、遊び心ある可愛いブタ型シャープペン。芯は半分に折り、鼻のふたとって中に入れる。鼻部分を押しとじっぽの方から芯が出てくる。ただし芯は1本しか入らない。また短く太い形状のため書きにくく実用性は低い。色は全6種類あり小物コレクションとして収集し、飾って楽しむこともできそう。また、文具ではなく筆記機能も備えた小物雑貨と考えると可愛いだけでなく、便利なものとして捉えることができるだろう。</p>
-------------------	--	--

\*ともに発売年不明

### 『何これ、どうやって使うの?』編

	 <p><b>「Lipno」</b></p>	 <p><b>「MYteeGRIP」</b></p>	 <p><b>「カルカット(クリップタイプ)」</b> (10~15mm幅用)</p>
<p><b>メーカー</b></p>	<p>株式会社カンミ堂 文具、事務用品、ノベルティ商品の企画開発および製造・販売を行う。 製館所の「甘美堂」がはじまり。</p>	<p>ゼブラ株式会社 ボールペン・シャープペン・マーカーなど各種筆記具の開発・製造・販売を行う、 1897年創業の大手老舗文具メーカー。</p>	<p>コクヨ株式会社 文具、事務用品を製造・販売するステーションリー関連事業などを行う、1905年創業の大手老舗文具メーカー。</p>
<p><b>発売年</b></p>	<p>2017年</p>	<p>2019年</p>	<p>2017年</p>
<p><b>価格(税別)</b></p>	<p>¥500</p>	<p>本体セット(専用シャープペンと専用グリップバンド)→¥600/専用グリップバンド→¥150</p>	<p>¥360</p>
<p><b>特徴</b> (メーカーHPより)</p>	<p>スティック状のリップクリームを模したケースに入った“リップ型”ロールふせん。可愛くコンパクトに携帯でき、使用時は用途に応じてふせんの幅を調節することができる。ふせんは全6種の色柄があり、キャップは中身のふせんの柄が透けて見えるクリア仕様。 ロールふせん：フィルムふせんを巻芯に巻きつけた仕様で、上図のように縦にミシン目が入っている。これを好みの幅に切り取って使う。また、カンミ堂のロールふせんは「センターのり加工」でふせんの中央部の広範囲に粘着面があり、しっかり貼りつきはがしやすく快適に使える。</p>	<p>自分の手に合わせて自分専用のグリップが選べるシャープペン。勉強などで長時間シャープペンを使っていると生じる、疲れや手汗などのグリップ部分の悩みを解決するべく開発された。 使用手順：1. グリップバンドを選ぶ。手汗をかきやすい場合はDRYタイプを、手が乾燥しやすい場合はWETタイプを選ぶ。2. グリップバンドを巻く。別売りのグリップバンドを追加して2重、3重と巻くことで自分に合う太さややわらかさができる。3. 完成</p>	<p>軽い力でまっすぐ切れる独自の特殊加工刃が特長の「テープカッター カルカット」シリーズのマスキングテープ用クリップタイプ。使用時にマスキングテープに挟むだけで簡単かつ付け替えも楽、加えてカルカット刃のため切り口がきれいといったことから、発売直後から女性を中心に高い支持を集めた。色は全6種、サイズは上記の他に20~25mm幅用がある。また2020年2月には新たに6種のデザインが数量限定で発売された。</p>
<p><b>その他使用感</b></p>	<p>リップに見立てたケースとふせんがおしゃれで可愛い。ふせんは本体から引き出し、ミシン目で切り取って使う。引き出しすぎたふせんは、実際のリップと同じように本体下部のつまみを回すことで巻き戻すことができる。また、ふせんを筆箱に入れておくと消しカスなどのゴミが付着して汚れたり、紙ふせんの場合粘着力が弱く片側がはがれたりという悩みがよくあるが、Lipnoの場合はキャップ付きケースで中身が保護されているため未使用のふせんが汚れず、またフィルム素材かつ「センターのり加工」のためはがれる心配もない。また鉛筆でも油性ボールペンでも書きやすい素材である。ただし、扱い慣れるまでは本体内部でふせんが切れてしまうこともあるが、そういった困った時の対処法はメーカーHPで詳しく説明されている。</p>	<p>本体の専用シャープペンは水色・ピンク・黒の三色があり、専用グリップバンドには2タイプそれぞれ上記の3色(現在は+2つの限定色)がある。このためグリップの太さややわらかさだけでなく、配色や巻き方を自分好みにカスタマイズすることで、可愛いものからかっこいいものにまで自由にアレンジ可能である。アレンジ例としては、グリップの上下を別の色にした「ツーカーカラー巻」や上図(右側)のような2色のグリップバンドを重ねて巻いた「ボーダー巻」が挙げられている。また、シャープペン自体の書きやすさは、さすが筆記具を長年専門にしているだけあってとても良い。</p>	<p>全色パステルカラーの優しい色合いで女性の人気を集めたのは納得できる。また従来のテープカッターは持ち運びしづらいサイズ感であるが、このクリップタイプはコンパクトで軽いため筆箱等に入れて携帯できる。また、そのまっすぐの切れ味については、上図の3「カルカットの切り口」と、1「手で切った切り口」や2「従来のテープカッターの切り口」(○印部分)を比べると一目瞭然である。個人的には1や2にも味があると思うので、この3つを場面や気分を使い分けるというのもよいだろう。また付け替えの手軽さは上述のように従来品と比べてかなり優れている。</p>

### ◇まとめ

以上5つの文具を見てきたが、「何これ、文房具?」編は「デザイン」編に、「何これ、どうやって使うの?」編は「機能」編

に言い換えることができる。前者の文具を手がけるメーカーは両社とも文具だけにとどまらないデザイン関連の事業を展開している。ここから生み出された文具は雑貨としてのデザイン性が高く、インテリア雑貨と文具の境界にあるといえるだろう。一方、後者は文具メーカーが人々のニーズを敏感に察知し、機能性・利便性の向上を目指して開発した新たな仕様の文具である。このため各メーカーのHPには開発理由や使用法といった情報が詳細に載っていることも特徴的だ。また、こちらも前者に劣らずデザイン性が重視されているようだが、前者と異なるのは機能性があるからこそデザイン、つまり「快適な使い心地」を妥協しない点といえるだろう。そして上述のリップ型文具をはじめとした可愛いデザインや、メーカーHPで各文具の紹介に「かわいい」という言葉が多用されていたことから分かるのは、両者に共通して開発時点で女性受けを意識した文具も少なくないということである。文具女子という言葉もあり、文具業界にとっては文具好き、可愛いもの好きな女性が重要な存在となっているのかもしれない。ともあれ、文具のデザイン性・機能性はより多様化してきている。今後どんなナニコレ文具との出会いがあるのだろう。

<参考資料> (以下、最終閲覧日すべて 2020年6月24日)

- ・株式会社カンミ堂 HP <https://www.kanmido.co.jp/>
- ・ゼブラ株式会社 HP <https://www.zebra.co.jp/>
- ・コクヨ株式会社 HP <https://www.kokuyo-st.co.jp/>
- ・株式会社ロフト HP <https://www.loft.co.jp/>
- ・株式会社 magnet HP <http://magnet-inc.com/ja/>
- ・株式会社デザインフィル HP <https://www.designphil.co.jp/>

■ 本稿書誌情報 ■

本稿は無記名原稿

---

### 『文具に関する論考と企画：奈良女子大学文具ゼミ2020』

[2020年度「文化社会学演習」WEB版報告書] <https://bunbu-nara-jo.org/>

---

2020年8月1日 編集・発行 国立大学法人奈良女子大学文学部

人文社会学科文化メディア学コース 小川伸彦研究室編

〒630-8506 奈良市北魚屋西町 E-mail [ogawanobuhiko@cc.nara-wu.ac.jp](mailto:ogawanobuhiko@cc.nara-wu.ac.jp)